

人体形態学

授業概要

人体の構造を分子、細胞、組織、器官、個体の各レベルで階層的に学ぶとともに、その放射線解剖学や発生学、ならびに神経解剖学について理解を深める。

担当教員

安井 幸彦 (主担当)	教 授・神経形態学
大谷 浩	教 授・発生生物学
北垣 一	教 授・放射線医学

一般目標

1. 人体の形成過程を分子から個体に至る各レベルにおいて理解する。
2. 人体各部の構造を肉眼解剖学および顕微解剖学的に理解する。
3. 人体各部の構造と機能との関連を神経解剖学的に理解する。
4. 人体各部の構造を画像形態学的に理解する。

行動目標

1. 人体形成における正常と異常を各レベルで説明できる。
2. 人体各部の基本的構造を機能と関連づけて説明できる。
3. 人体の構造の病的異常を画像形態学的に説明できる。
4. 基礎的および臨床的な課題を通じて、自ら問題を解決する能力を養う。

成績評価の方法

出席状況とレポートにより総合的に評価する。

使用テキスト・参考文献

適宜推薦する。

教育内容（講義および演習）

回	授業内容	担当
1	人体発生学 1	大谷 浩
2	人体発生学 2	大谷 浩
3	人体発生学 3	大谷 浩
4	人体発生学 4	大谷 浩
5	人体発生学 5	大谷 浩
6	神経・感覚器学 1	安井幸彦
7	神経・感覚器学 2	安井幸彦
8	神経・感覚器学 3	安井幸彦
9	神経・感覚器学 4	安井幸彦
10	神経・感覚器学 5	安井幸彦
11	画像形態学 1	北垣 一
12	画像形態学 2	北垣 一
13	画像形態学 3	北垣 一
14	画像形態学 4	北垣 一
15	画像形態学 5	北垣 一